

## 令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	Mapping Habitable Planetary Environments with Exoplanet Imaging
研究代表者	Guyon Olivier (国立天文台・ハワイ観測所・RCUH 職員) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、固体の水が形成される境界線よりも内側に軌道を持つ太陽系外惑星を、大型望遠鏡によって直接観測することを目的としている。具体的には、補償光学のための 3000 素子の可変形鏡、及び主星からの小さい離角での高コントラスト観測のための新しい重要な手段として期待されるナル干渉・フォトリックチップ装置の開発を行う。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>本研究により、すばる望遠鏡を用いた主星に近い軌道を持つ巨大惑星の研究の機会が新たに開かれ、また将来的には、超巨大望遠鏡を用いたハビタブル惑星の研究が可能となることが期待される。また、ナル干渉・フォトリックチップを用いる方式は独創性があり、新たに強力な手段として当該研究分野の発展に資すると判断する。</p>